

第 3 回 経済学部 入ゼミ説明会

2017 年 1 月 7 日(土)

2016 年度 慶應義塾大学 経済学部ゼミナール委員会

目次

今後の流れ	p.2
A 日程登録日,試験に関して	p.3~4
B 日程登録日,試験に関して	p.5
代理人登録制度.に関して	p.6
新規ゼミ、募集再開ゼミの紹介	p.7~12
経済学部ゼミナール委員会について	p.13~14
説明会の教室配置図	p.15~16

第三回入ゼミ説明会

【今後の大まかな流れ】

- 1/7 (土) 第三回入ゼミ説明会 (本日)
- 1月下旬 期末テスト
- 2月4日(土) A日程登録日
⇒経済学部の研究會を志望する学生はここで願書を提出。
- 3月13日(月) A日程試験日
⇒原則としてこの日に試験や面接を行う。当日中に合格発表も行う。
- 3月17日(金) B日程登録日
- 3月27日(月) B日程試験日
- それ以降 C日程試験
- 4月 入会試験に合格した場合、4月に必ず履修申告をしましょう。

【A 日程 登録日に関して】

日時 2月4日(土)

場所 三田キャンパス 西校舎

持ち物 学生証、筆記用具(鉛筆、シャープペンシル不可)、願書(記入済み、念のための未記入のもの両方)、予備の証明写真

学生証は必ず持参してください。忘れた者の登録は認めません。

★願書について

経済学部ゼミナール委員会 HP 上から願書をダウンロードし、全項目を手書き or タイピングで記入後、本登録当日に持参してください。(※ゼミごとに記入方法の規定が異なるので必ず HP をチェックすること)

10:00 開場

(志望ゼミごとに指定の教室に着席してください。)

11:00 教室締め切り

(11時以降は会場に入れなため、登録できなくなります。)

西校舎 519: 赤林～大久保

526: 太田淳～木村

528: 小林～玉田

531: 崔～藤田

532: 藤原～山田 (敬称略、あいうえお順)

経ゼミ本部は 517 とします。緊急の場合や忘れ物をした場合など、まず相談しに来てください。

電車の遅延等の理由で遅れてきた人もこちらに集まってください。その際は証明書等をお持ちください。正当な理由だと判断できた場合のみ登録を受け付けます。

12:00～ 西校舎 533 (代理人用)

14:30 集計結果発表 (経ゼミ HP・西校舎地下経済学部掲示板・経ゼミ Twitter)

14:30～15:30 登録先変更受付

526: 赤林～須田

528: 高草木～山田

(変更先ゼミの教室に入ってください。)

17:00 最終集計結果発表 (経ゼミ HP・西校舎地下経済学部掲示板)

※集計結果発表後に登録ゼミを変える可能性がある場合は、変更先のゼミに合った内容・記入方式の願書を持参してください。

※当日急病にかかった際は、2月4日(土) 11:00 までに keioecon.nyuzemi2016@gmail.com に連絡すること。経済学部ゼミナール委員会と連絡を取ったのち、後日願書と医師の診断書を持参してもらうことで登録の受理とします。

【A 日程 試験・発表日】

日時：3月13日（月）

時間：別紙参照（経ゼミ HP 研究会募集概要）

場所：三田キャンパス

内容：A 日程試験・合格者発表（B 日程の実施の有無および詳細発表）

【B 日程登録日】

日時：3月17日（金）

場所：西校舎（三田キャンパス）

11：30 開場

（志望ゼミごとに指定の教室に着席してください。）

12：00 教室締め切り

（12時以降は会場に入れなため、登録できなくなります。）

※B 日程募集ゼミは A 日程終了後経ゼミ HP で確認してください。

※B 日程登録時の教室は当日に案内します。

13：30～ 代理人による登録開始（教室未定）

14：30 集計結果発表（経ゼミ HP・西校舎地下経済学部掲示板、経ゼミ Twitter）

14：30～15：30 登録先変更受付

※教室は当日案内します。

17：00 最終集計結果発表（経ゼミ HP・西校舎地下経済学部掲示板）

・持ち物：学生証、筆記用具（鉛筆、シャープペンシル不可）、願書（記入済・未記入両方用意して下さい）、予備の証明写真

※学生証を忘れた者は登録を認めません。

※未記入の願書は、念のため持参してください。

※集計結果発表後に登録ゼミを変える場合は、変更先のゼミに合った内容・記入方式の願書を持参してください。

※当日急病にかかった際は、3月17日（金）12:00 までに keioecon.nyuzemi2016@gmail.com に連絡すること。経済学部ゼミナール委員会と連絡を取ったのち、後日願書と医師の診断書を持参してもらうことで登録の受理とします。

【B 日程試験・発表日】

日時：3月27日（月）

時間：経ゼミ HP 参照

場所：三田キャンパス

内容：B 日程試験・合格者発表（C 日程の実施の有無および詳細発表）

【C 日程試験】

本登録はありません。

B 日程後各自、C 日程試験を行うゼミと直接連絡を取ってください。

【代理人登録について】

●代理人登録制度とは

研究会入会を希望する学生が、本登録日に登録会場に来ることが出来ない場合に、別の学生に代理人として手続きを依頼する制度のこと。

●代理人申請を行う場合

申請方法：期間内に代理人登録用アドレス〈keioecon.nyuzemi2016@gmail.com〉まで申請してください。

受付期間：A日程は1月31日(火)23:59締切、B日程は3月14日(火)23:59締切。

※注意事項あり（該当者はHP該当欄を熟読すること）

本日の入ゼミ説明会で、経ゼミ本部で代理人登録制度の詳細のプリントをお配りしています。（HPに掲載しているものと同じものですので、そちらをご覧ください。）代理人による登録を検討している方で質問、相談等あればお越しくください。

●募集停止ゼミ

池尾研究会、大沼研究会、直井研究会、中嶋研究会、延近研究会、古田研究会、別所研究会

●募集再開ゼミ

神田研究会、津曲研究会、廣瀬研究会

●新規ゼミ

佐藤研究会、壽里研究会

募集再開ゼミ、 新規ゼミ紹介

★募集再開ゼミ

神田研究会（アジア経済史）

津曲研究会（ミクロ経済理論とその応用）

廣瀬研究会（マクロ経済モデル分析）

★新規ゼミ

佐藤研究会（金融論・日本経済の応用ミクロ経済学）

壽里研究会（社会思想・社会思想史）

神田さやこ研究会 (他学部・可)

—アジア経済史—

1、研究分野

アジア経済史。教員の担当が南アジア（インド、バングラデシュなど）なので、南アジアに関する研究が中心となる。具体的には、アジア地域の経済発展のダイナミズムおよび経済・社会が抱える諸問題（エネルギー・環境、貧困・格差、女性など）を理解するうえで重要な歴史的背景やそのなかでつくられてきた社会的・文化的特徴について、長期的視点にたった研究をおこなう。ただし、他のアジア地域に関心がある学生や、経済史以外の歴史分野（文化・芸術、経営、環境など）も歓迎する。

本研究会での最終目的は卒業論文を完成させることにあるので、各自設定したテーマに基づいて研究を進めてもらう。3年生の春学期には、(1)基本文献の輪読と討論を通じて、基礎知識および研究の基本的フレームワークを習得し、(2)三田祭発表用共同研究の課題を設定する。夏休み中には、その課題に基づいて多くの文献を読み、研究を進める。秋学期には、(1)三田祭発表にむけた報告・討論をおこない、論文を完成させる。三田祭後、(2)具体的な卒業論文のテーマを設定し、研究に着手する。4年生は個別に卒業論文の執筆を進め、ゼミでは研究や議論をリードする役割をになう。

2、学生への要望

アジア地域に関心をもち、積極的に課題に取り組むことができる意欲的な学生の参加を期待します。卒業論文作成に向けての約2年間、英文を含む多くの文献を読み、議論し、報告し、書いてもらうことになるので、そのつもりで参加してください。

3、選考について

①募集人数

AB 合計 10 名程度

②選考内容

1. レポート

- ・テーマ：自由に設定し、4000 字以内で論ぜよ（字数に参考文献は含まない）。
- ・提出期限：A 日程 2017 年 3 月 8 日 23:59
／B 日程 2017 年 3 月 25 日 23:59
- ・提出先：kanda[at]a7.keio.jp に word ファイルを添付

2. 面接（教員が留学中のため、詳細はレポート提出者に個別に連絡する。）

3. 選考基準

レポートと面接で総合的に判断する。ただし、特にレポートを重視する。

4. 問合せ

必ず件名をつけて、kanda@a7.keio.jp まで。

津曲正俊研究会 (他学部・可)

—マイクロ経済理論とその応用—

1、研究分野

担当者の留学により募集を停止しておりましたが、2017年度より12期生を募集します。私は、マイクロ経済学、特に「契約理論」の分野で研究活動を行っております。「契約理論」は、2016年のノーベル経済学賞受賞対象になった非常にホットな研究分野です。人々の行動を織り込みながら制度・組織をどう設計したらよいかを検討する理論です。社会問題の多くは、人間行動を適切に制御できなかった制度・組織設計の失敗として説明できます。問題がなぜ発生するのか、解決策はあるのか、などを分析するために有用な理論です。

研究会では、契約理論を含む最先端のマイクロ経済理論を幅広く学び、それを用いて現実の経済問題を分析する能力を磨くことを目的に活動します。第一の柱は、皆さんが日吉時代に学んだマイクロ経済学入門の理解をさらに深めると同時に、「ゲーム理論」や「契約理論」など比較的新しい理論分野を専門書の輪読・議論を通じて学習することにあります。第二の柱は、経済理論の応用分野の文献を読むことで、理論が現実問題の分析にどう用いられているか学習することにあります。マーケットデザイン理論、国際貿易論、産業組織論などマイクロ経済理論を基礎として発達した研究分野の文献の輪読を考えております。2017年度に扱うテキストは未定ですが、研究会に在籍する2年間に経済理論とその応用を幅広く勉強できるように配慮したいです。3年生のとき

には、経済問題の分析に経済理論を応用する場としてパートごとの共同研究を推進してもらいます。また最終的な研究成果は、皆さんの関心に応じた研究テーマでの卒業論文として提出してもらいます。

2、学生への要望

経済理論は、必死になって考えて習得できることが多く、忍耐強さが要求される研究分野です。経済理論に高い関心を持ち、さらに深く学習・研究する意欲をもった学生の参加を望みます。再開研究会ですので、伝統に縛られない活動ができますが、参加者の意識次第で研究会の雰囲気も大きく変わります。研究会を盛り立てたいという意欲を強く求めます。担当者が現在留学中で、ゼミ説明会を開催できませんが質問があれば津曲 (tsumagari.seminar2016@gmail.com) までメールをください。

3、選考について

- ①募集人数： 10名程度
- ②選考内容： 願書、1・2年の成績、面接（担当者が留学中のためスカイプを用いる）による総合的判断
- ③選考基準： 1・2年生の成績（特にマイクロ・マクロ・統計学）と面接を重視します。面接では、研究したいテーマ、マイクロ経済学の基本的理解を確認します。願書提出と同時に tsumagari.seminar2016@gmail.com にメールをください。成績提出・スカイプ面接に関して指示します。

廣瀬康生研究会

—マクロ経済モデル分析—

1. 研究分野

マクロ経済モデルは、(1)現実の複雑な経済構造の理解を助けるための単純化、(2)経済情勢が今後どのように推移するかの予測、(3)政策変更の影響を計るシミュレーション、などを行うことができる分析ツールです。本研究会では、参加者がこうした分析手法を習得し、各自の問題意識に応じてモデル分析ができるようになることを目標とします。マクロ経済モデルには様々な種類が存在しますが、本研究会では特に、フォワードルッキングな経済主体の最適化行動から導かれる行動方程式と市場の均衡条件を組み合わせた「動学的確率的一般均衡モデル (DSGE モデル: Dynamic Stochastic General Equilibrium Model)」を研究対象とします。DSGE モデルは、政策の波及効果を考える上で重要となる経済主体の期待の役割を明示的に取り込んでいるなど、政策分析に適した性質を有していることから、世界中の主要中央銀行や国際機関においても近年盛んに開発・運用が行われています。

DSGE モデルの理解には、大学院レベルの知識が不可欠だと考えられていますが、少人数でじっくりと取り組むことができるというゼミの利点を生かせば、学部生にも十分習得可能だと思っています。

研究会では、まず、輪読または講義を通じて「DSGE モデルとは何か」、「DSGE モデルがなぜ必要か」といった点について理解を深めます。その間、DSGE モデルを理解する上で必要となる経済学と数学の知識も同時に学んでいくことになります。次に、行列演算ソフトウェアである MATLAB を用いて、モデルの解法やシミュレーション技法を身につけます。最終的には、参加者が自ら DSGE モデルを構築し、現実のマクロ経済分析 (経済変動の要因や財政・金融政策に関する分析など) に活用することを目指します。

2. 学生への要望

学部中～上級レベルのマクロ経済学、ミクロ経済学、微分積分、線形代数、統計学の知識が必要となります。具体的には、以下のテキストを自力で読めることを前提とします。

・George McCandless, *The ABCs of RBCs: An Introduction to Dynamic Macroeconomic Models*, Harvard University Press, 2008.

・加藤涼『現代マクロ経済学講義—動学的一般モデル入門』東洋経済新報社、2006年。

参加者は研究会の時間以外にも、各自積極的に研究時間を確保することが求められます。

来年度再開のゼミです。以前の活動内容は、ゼミ生による研究会 HP を参考にして下さい。
<http://seminar.econ.keio.ac.jp/hirose/>

私の専門分野および研究内容については、以下の HP を参照して下さい。
<http://sites.google.com/site/yasuohirose/>

3. 選考について

- ① 募集人員：5～10名
- ② 選考内容：レポートおよび面接（日吉での履修科目・成績を重視します。）

」

佐藤祐己研究会 (他学部可)

—金融論・日本経済の応用ミクロ経済学—

1. 研究分野

私の専門は、金融論・ファイナンスです。主に、情報の経済学をファイナンスに応用し、銀行やヘッジファンド等の機関投資家がどのように行動し、資産価格や市場流動性にどのような影響を与えているか（例：資産バブル、株価モメンタム、金融市場の脆弱性）を研究しています。詳細は、<https://sites.google.com/site/yukisatoecon/>を参照してください。

本研究会のテーマは、「日本経済の現状と課題」を、経済学のロジックを踏まえて分析することです。私の専門が金融なので経済の金融的側面に着目することが多いと思いますが、それに限らず、広い視野で日本経済を理解することを目指します。そのために、日本経済の現状をよく知る努力と、それが抱える問題の解決の途を探るために不可欠な理論面での研鑽を行います。

2017年度の研究会は、池尾和人研究会と共同で開催します。 2017年度の池尾ゼミは4年生のみで、私の新規ゼミは3年生のみですので、共同開催によりちょうど3・4年生が揃う格好になります。12月には、早稲田大学商学部の広田真一ゼミとのインゼミを予定しています。

最初に、ウォーミングアップとしてみずほ総合研究所『経済がわかる 論点 50 2017』東洋経済新報社、2016年を輪読します。その後は、

清水克俊『金融経済学』東京大学出版会、2016年

の輪読を予定しています。3年生は、少人数のグループに分かれて三田祭論文を執筆するのがメインの活動です。4年生は、卒業論文の執筆が主な活動です。

2. 学生への要望

金融・ファイナンスや日本経済に興味があり、それらについて浅薄な議論をするのではなく、経済学に基づいてじっくり考え、議論し、理解したい学生を望みます。

本研究会は現実と理論のバランスを重視しますので、数理モデルだけに興味がある人にはお勧めしませんし、理論にアレルギーがある人にも向いていません。

与えられたことをただこなすのではなく、自発的に考え、積極的に議論に参加し、独創性のある研究をする意欲を持った学生を希望します。

3. 選考について

①募集人数：12名～16名。

②選考内容：基本的には、面接で選考します。ただし、応募人数が一定数を越えた場合には、試験（ミクロ経済学中心、持込不可）を行う場合があります。その場合、事前に応募者に連絡します。

③選考基準：面接と成績表により、総合的に判断します。

壽里竜研究会 (他学部・可)

—社会思想・社会思想史—

1、研究分野

このゼミの研究分野を知ってもらうために、担当教員の専門的な関心について説明しておこう。私の専門は18世紀ヨーロッパの社会思想史であり、主な研究対象はデイヴィッド・ヒュームやジャン＝ジャック・ルソーなどである。ヒュームは経済学の祖と言われるアダム・スミスの親友でもあり、経済学的な著作も残しているが、同時に哲学者（倫理学も含む）・歴史家としても知られている。また、ルソーは、経済学史に個別の貢献をしたわけではないが、文明批判という形で商業活動を中心的な原理とする近代社会そのものを批判した思想家であった。いずれも特定の学問の名前を冠した「〇〇学者・思想家」と限定されない点に特徴がある。

そこで、本ゼミにおいても、経済（学）的な領域と他領域（哲学・政治・法・倫理）との関連について考えていきたい。ゼミにおける研究対象は、18世紀に限定せず、広い意味での哲学—政治哲学（公共哲学）と経済思想・倫理—における様々な「主義」である（本ゼミの守備範囲を知るための一つの手がかりとして、ゼミで輪読予定のマイケル・サンデル著『これからの「正義」の話をしよう：いまを生き延びるための哲学』〔鬼澤忍訳、ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2010年〕を参照）。本ゼミを通じて、一見すると経済学とは関係のなさそうに見える諸問題も、私たちが目指す社会のあり方とは切っても切れない関係にあること、経済学的思考の適用範囲の広さと限界とを学んでもらいたい。最終的には、資本主義とグローバリゼーションを特徴とする現代社会に対して、それぞれのゼミ生が自分なりに一貫した立場を作り上げられるようになることを目標としている。

ゼミの進め方については、代表的な思想的

立場（功利主義、リベラリズム、リバタリアニズムなど）を扱った本をテキストとし、輪読・ディスカッションを中心とする。

なお、本研究会は2017年度、初開講である。そのため（四年生のゼミ生がいないため）、三年次には「演習」と「研究会」をセットで履修してもらう。第一期生であること自体に特段の価値はないが、今後の本ゼミの方向性や特色を決める上で重要なので、やる気のあるゼミ生の応募を期待している。

2、学生への要望

本ゼミで扱うテキストに数式は出てこないが、政治学・哲学・倫理学・歴史など、多分野にわたる幅広い知識が必要となってくる。「数学が苦手だから」という消極的な理由での応募は勧めない。ふだんから本を読む習慣を身につけていること、幅広い関心を持っていることが求められる。本ゼミで学ぶ内容について特別な予備知識を持っている必要はないが、遅刻・欠席、議論への不参加、提出物の遅延・未提出は、成績評価・単位取得に著しく影響する。予習・復習もせず、ゼミの最中、黙って座っているだけで単位がくことはしない。ゼミ生間の人間関係について、サークル的な親しさは求めていない。むしろ、一個人として、相手との間に個人的な親しさがなくても自分の意見を伝えられる公共性こそ必要であると考えている。

3、選考について

- ①募集人数:AB 日程あわせて10~15名程度
- ②選考内容:レポートと面接(レポートの条件については、別途「入ゼミ選考方法」で指示する)。
- ③選考基準:日頃の読書・問題関心について質問する。

経済学部ゼミナール委員会とは？

経済学部ゼミナール委員会は、慶應義塾大学経済学部設置されている各研究会より1名ずつ選任されたゼミ代表を委員として構成される委員会です。経済学部のゼミナールに所属している学生は1学年あたり約1000人弱おり、その経済学部の各研究会間の親睦を図り、慶應義塾の興隆に寄与することを以てその目的としています。

●構成

会長： 川俣 雅弘教授

構成員： 経済学部各研究会からの代表者

常任委員： 構成員の中から選出された15名

四月の最初のゼミで外ゼミ代表になった人で、経ゼミの常任委員になりたい人は立候補してください！

応募者が多かった場合は面接による選考を行います。現時点では4/15(土)を予定しています。

●意義

○経済学部として慶應義塾大学の興隆に寄与する。

○経済学部の研究会相互間の親睦を図る。

○月1回、全構成員による総会を開く。

○週1回、常任委員による常任委員会を開く。

経済学部、ひいては慶應義塾大学全体に貢献できるよう日々活動しています。

●経ゼミ主催イベントカレンダー

- 4月 新年度経ゼミ常任選挙
- 5月 春期ソフトボール大会開催
- 6月 全塾ソフトボール大会協力
- 7月 第一回入ゼミ説明会
- 8月 オープンキャンパス経済学部運営
- 9月 秋季バレーボール大会
- 10月 第二回入ゼミ説明会
- 11月 三田祭論文発表、三田祭講演会
- 12月 三田祭論文優秀者表彰
- 1月 第三回入ゼミ説明会
- 2月 入ゼミA日程登録
- 3月 入ゼミA日程試験・発表、B日程登録、試験

これらのイベントの運営は経ゼミ常任委員が中心となって行います。

経ゼミに興味がある方、常任委員になってみたい方、ぜひブースにお越しください！

2016年度経ゼミ常任委員

委員長：杉山卓人(金子研究会)

副委員長：味村俊吾(直井研究会)

財務：湯山朝子(土居研究会)

全塾：中島未稀(中村研究会)、柿島啓暢(池尾研究会)

企画：今井一輝(大西研究会)、小林寛英(河端研究会)

入ゼミ：李侑珍(櫻川研究会)、大塚雄登(崔研究会)、

鈴木亮也(武山研究会)、東松理沙子(延近研究会)

三田祭：小池純平(古田研究会)、小杉拓也(細田研究会)、守屋祐一郎(尾崎研究会)

IT：前田凌佑(坂井研究会)

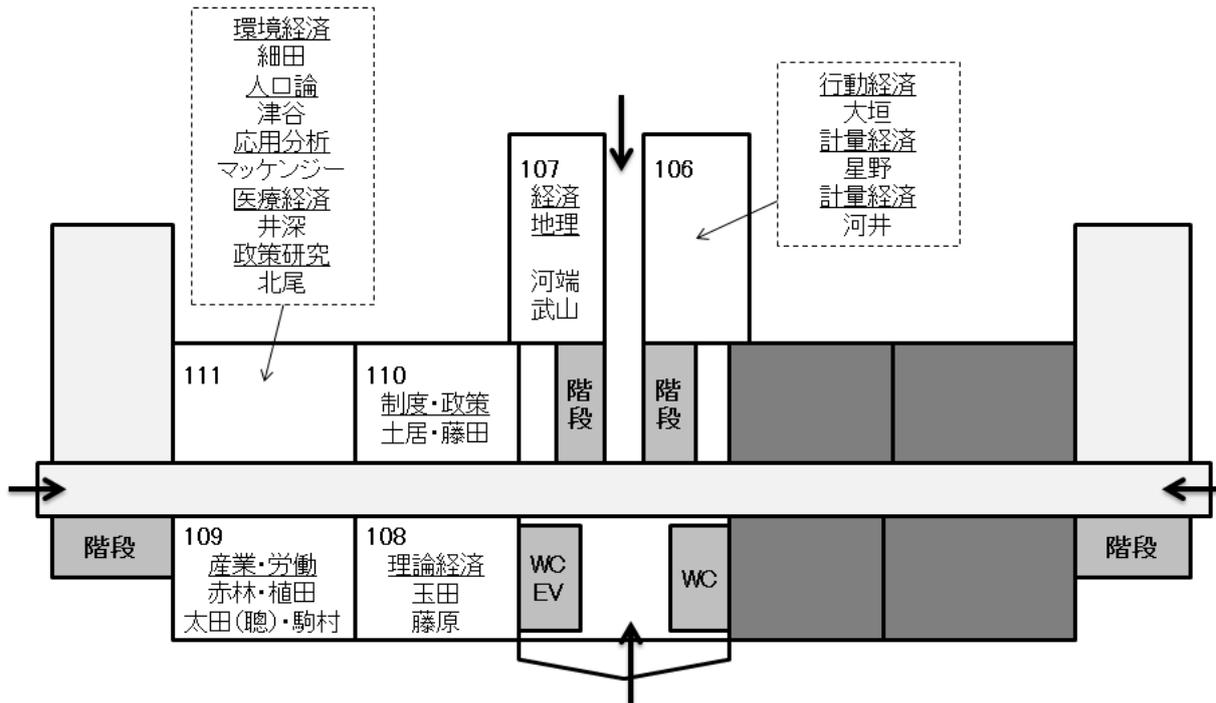
< 個別ブース配置図 >



大学院校舎5階

354 理論経済 石橋 中村	355-A 理論 経済 穂刈	355-B 理論 経済 塩澤	356 国際経済 白井
353-D 理論経済 須田	階段		357-A 国際経済 竹森
353-C 理論経済 坂井	WC		357-B 国際経済 駒形
353-B 理論経済 尾崎	EV		357-C 国際経済 嘉治
353-A 理論経済 大西	階段		
352 開発経済 大平 山田(浩)	351-B 国際 経済 秋山	351-A 国際 経済 大久保	358 国際経済 木村

1校舎1階



1校舎4階

